

家族になるには

三年 望月 彩

我が家には問題児の猫がいる。うちに住みついた野良猫だ。

今から七年前、十六年生きた猫ちゃあきい亡くなったばかりだった。黒と白のハチワレで、おっとりした優しい男の子だった。私が生まれた時にはもういて、しつこい子供の相手もいやがらず、よくつきあってくれた。家族みんな、ぽっかり穴があいたような虚しい気持ちでいた。そんな失意のなか、家にふらっと一匹の猫が来た。がたいのいい茶白のこれまた男の子。私と姉はそれはもう大喜びで家で飼いたいと母に言った。母は、

「飼うなら去勢しないとね。」

とまずは病院に連れて行った。先生がいうには、推定三才位だそう。茶白の猫は、去勢をしてはれて家の猫になった。姉がアニメ『トムとジェリー』から茶白にトムという名を付けた。

私達は、久々の猫がいる生活が嬉しくてウキウキした。猫はフレンドリーな存在だと思っていたからだ。ところが、トムは野良生活が長かったからか、もともとの性格か、家族五人それぞれ咬みつかれた。なかでも母は、病院にまで行くはめになった。私は何だか悲しくなった。猫は友好的な動物じゃ

ないの!?!こんな凶暴な猫飼うんじゃない。みんな色々考えた。なんでトムは咬むのだろう?これから一緒にやっていけるかな?でも、咬まれた状況を言い合ってみたら、共通点が見付かった。父と姉と私はさわっている時、祖母と母はブラッシングの時。もしかしてトムにとっていやな事だったのでないか。少なくとも私と姉は、なですぎたところはあつた。ブラッシングだって、今までしてもらった事はないかもしれない。私達はトムの過去、生い立ちを知らない。人間に飼われたことが初めてだとしたら、言葉も通じない違う種族の中での生活、考えただけでもストレスだろう。

私達はその後も何回か咬まれたが、その度にまず、自分の行動を考えるようになった。だいたいはこちらの過失か、トムの虫の居所が悪いか、どちらかだ。そして、猫の自由で気まま、マイペースな性格もだんだん分かってきた。仲良くなるには相手を知らる事だろう。

七年たった今でも、時折咬まれるが、トムも加減をするようになった。一日一日の積み重ね、トムを思いやる気持ちで何とかここまでやってきた。

トムは今日も、そんなに愛想がいいわけではないけれど、家族の顔はしっかりと覚えている。